



奥州支部だより

第35号

令和7年2月12日

公益社団法人岩手県看護協会
奥州支部長 菅原宏則
支部会員数 571名(令和6年12月31日現在)

公益社団法人 岩手県看護協会 令和6年度地域別懇談会(中央)

去る令和6年12月7日(土)公益社団法人 岩手県看護協会 令和6年度地域別懇談会(中央)を奥州支部主催で開催いたしました。

圏域内の看護管理者並びに会員各位の数多くの参加者を頂き感謝申し上げます。

開催にあたり私の不手際で大変ご迷惑をお掛け致しまして誠に申し訳ありませんでした。

懇談会は令和6年度重点事業実施報告、各職能委員より令和6年度上半期職能委会活動報告を受け、花巻、北上、奥州と支部ごとに活動報告を行いました。

限られた時間でありましたが情報の共有が出来たのではないかと考えております。

また、今回の地域別懇談会より看護管理者懇談会が開催され各圏域の看護管理者よりタスクシフト/タスクシェアなどの貴重な意見や情報も共有できたのではないかと思います。改めてお忙しい中、ご参加いただきありがとうございました。

公益社団法人 岩手県看護協会

奥州支部 支部長 菅原宏則

『よさってハッピー』に参加して

啓愛会 美希病院

看護師 中沢 はるみ

真城が丘集会所で毎週行われている『よさってハッピー』に参加させて頂きました。初めての参加でしたが、「一緒にしませんか?」と温かく迎えて頂きました。

『いきいき100体操』では映像に合わせ、皆さんで声を出しながら明るく笑顔で取り組まれている姿が、印象に残っています。

体操を終えた後は、栄養指導を行いました。一日の塩分摂取量や脂質、コーヒーやお茶等の嗜好品について等、様々な質問がありました。日々の生活の中で気を付けていることをお互いに話され、バランスよく食事を摂取する事の大切さを再認識されていたようです。

会の最後に行われた『声を出して笑う』では、恥ずかしさもあり声が小さくなってしまいました。意図的な行為ですが、笑うことで周りも自分も元気になる、大切にしていきたい習慣だと感じました。またこのような機会があれば参加していきたいと思っております。

看護はひとつ ～心のバトン～

奥州病院

看護師 熊谷 穂空

看護師となり2年が経ちこれまでを振り返るとあっという間の2年間であり、それと同時に沢山の学びを得た2年間でした。

21年間生活してきた地元宮古市を離れ右も左もわからないまま奥州市に移り住み、縁あって奥州病院で看護をさせていただいています。

私が勤務している病棟は地域包括ケア病棟であり、60日という入院期間が設けられています。その期間の中で患者様のニーズに合わせ多職種と連携し地域生活に繋げるという特色がある病棟です。60日間というのは私にとってはあっという間で、もっと患者様にとって心地良い看護を提供できたのではないかと振り返ることが多いです。限られた期間の中で患者様が何に悩み、何を必要としているのかを考えて関わっていくことが看護を提供する身として重要だとこの2年間を通して強く感じました。看護師にとっては何十人と入院している中の一人の患者様かもしれませんが、患者様にとって私たち看護師という存在は、慣れない場所、家族や友人がいない不安や孤独感のある環境下の中で関わる一人の看護師なのだとすることを頭に入れ関わるのが大切だと感じます。当たり前のことではありますが、当たり前を大切にしながら3年目もより患者様にとって心地よい看護を提供できるよう日々精進していきたいと思います。



奥州支部研修会の開催

まごころ病院

高橋 真由美

今年度2回目の支部研修会が9月20日（金）に開催されました。講師に県立胆沢病院感染管理認定看護師の吉田裕子先生を迎え、「標準的感染症対策の基礎知識」について講義していただきました。クラスター等を経験されてきた施設も多いためか、出席者も真剣に講義を聞いていました。今後、新型コロナ、インフルエンザの感染拡大が懸念されるなかで、日頃の感染対策がいかに重要であるかを改めて知ることができました。この講義をしっかりと現場に活かし感染拡大防止に努めていきたいと思いました。

